

だいきく通信 第三十二号「冬の号」

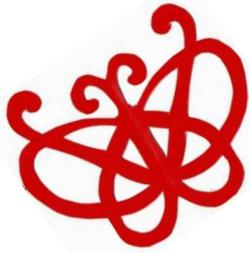
ついでに

師走となりました。国の内外の動きはますます目まぐるしく、ただただ圧倒される思いです。こんな時こそ、昔から変わることのない習慣や伝統にしっかりと目を向け、心のよりどころとしていくことが大切だと思います。当社がそのような精神的な支えの一つとなることができれば、わたくしどもも努力を重ねてまいりたいと考えております。来る新しい年もなにとぞご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

社報「だいきく通信」第三十二号をお届けします。

今回の内容は、新年のご祈祷受付時間のご案内、催し物のご報告と予告、当社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」などです。連載まんがには新年に向けて新たな仲間が登場。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



平成三十年新年のご祈祷受付時間

一月一日(月)	午前零時～二時	午前六時～午後五時
二日(火)	午前八時～午後五時	
三日(水)	午前八時～午後五時	
四日(木)	午前九時～午後三時	
五日(金)	午前九時～正午	
六日(土)	午前九時～正午	
七日(日)	午前九時～午後三時	
八日(月・初子)	午前九時～正午	

平成 30 年の厄年一覧(数え年)			
	前 厄	本 厄	後 厄
男性の厄年	24歳 平成7年生 い(いのしし)	25歳 平成6年生 いぬ	26歳 平成5年生 とり
	41歳 昭和53年生 うま	42歳 昭和52年生 み(へび)	43歳 昭和51年生 たつ
	60歳 昭和34年生 い(いのしし)	61歳 昭和33年生 いぬ	62歳 昭和32年生 とり
女性の厄年	18歳 平成13年生 み(へび)	19歳 平成12年生 たつ	20歳 平成11年生 う(うさぎ)
	32歳 昭和62年生 う(うさぎ)	33歳 昭和61年生 とら	34歳 昭和60年生 うし
	36歳 昭和58年生 い(いのしし)	37歳 昭和57年生 いぬ	38歳 昭和56年生 とり

※近年は女性61歳の還暦も厄年とする場合もあります。

大國神社の今

○第三回だいきくクラシックスを開催しました。

昨年の第二回に引き続き、東京都交響楽団で第二ヴァイオリン副首席奏者をお務めの小林久美さんをお迎えして、リサイタルを行ないました。今回は、バッハの無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第三番、それに、バッハのこの作品からの引用を含むイザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタから第一楽章、そして、無伴奏ヴァイオリンのための愛唱歌より数曲をご披露くださいました。温かく誠実な演奏に加え、小林さんはイザイの曲について聴きどころの解説もしてくださいました。愛唱歌の最後の「上を向いて歩こう」では聴衆の皆さんも歌でご参加いただき、充実したひとときを過ごすことができました。小林さん、ご来



場くださった皆さま、ありがとうございました。だいきくクラシックスは来年以降も継続していきたいと考え、現在、鋭意企画を検討しております。どうぞご期待ください。

○第七回だいきく落語会、日程が決定しました。

毎年春に開催しておりますだいきく落語会の、来年の日程が決まりました。次回も古今亭菊之丞師匠をお迎えしての独演会です。

平成三十年五月二十六日（土）午後五時開演

参加のお申し込みは、来年四月二日の甲子祭から受け付ける予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

お宮あれこれ「イヌのはなし」



今年も残すところあとひと月ということ、来年の干支の戌にちなんで、今回はイヌのお話をいたしましょう。

よく言われている通り、イヌと人間はるか昔から密接にかかわっています。最近の研究によれば、古くは五万年から十萬年前、石器時代に人間が暮らしていた洞穴で、飼われていたイヌのものと思われる骨が見つかったというそうです。

イヌは嗅覚が鋭いことがよく知られています。たとえば麻薬探知犬の活躍が報じられることがあります。これは鋭い嗅覚を利用して薬物を探知するものです。どのくらい鋭いかというと、ガラスに人間がつけた指の跡でも、ずっと室内に置かれて

いれば、6週間後でも嗅ぎ当てることができるそうです。また、聴覚も鋭く、シェパードは同じ音量の音であれば、人間の4倍も遠くからききつけるとも言われています。このように嗅覚や聴覚が鋭いところから、イヌは番犬として利用されるようになりました。ただし、視覚はあまり発達しておらず、弱い近視だと言われます。

なお、イヌの体の特徴はオオカミと共通するところが多く、『動物記』で知られるシートンは、イヌとオオカミとを正確に区別することは大変難しいとされています。オオカミは霊的な存在と考えられることがあり、秩父の三峯神社や静岡県磐田の山住神社では山犬（ニホンオオカミ）が神の使いとされています。この背景には、オオカミが「大神」と通じることもあると思われれます。

日本でイヌの話が最初に文献に登場するのは、『古事記』下巻だそうです。『古事記』が編纂された奈良時代にはすでに猟犬や番犬を飼育する「犬養部（いぬかいべ）」が存在していました。「部」というのは、奈良時代、律令制が確立される以前に大和政権につかえていた技能集団です。

さて、このように人間とは長い付き合いのあるイヌですが、信仰など文化的な面で見ると、私たちの生活にどのようなにかかわっているでしょうか。まず、郷土玩具の「犬張り子」は、幼児を守る魔除けとして寝室に置かれていたものです。これは番犬としての働きから生まれた習慣でしょう。また、イヌは出産が軽いことから、妊婦が妊娠5か月目の戌の日に岩田帯と呼ばれる腹帯を締める習慣が生まれました。岩田帯には「犬」という字を書いたり、イヌの絵を描いたりすることもあります。さらに、お宮参りや生後初めての外出の際には、額に墨や紅で

「犬」の字を書いて魔除けにする場合もあります。そのほか、イヌは「桃太郎」「花咲か爺」などの昔話の中で重要な役割を果たしているところからも、人間生活の中に古くから深くかかわっている存在であることがわかります。

ペットとしてイヌを飼っていらっしゃるかたも多いかと思いますが、最近ではペットも家族の一員として扱い、人間と変わるところがない、大切な存在と考えるようになってきました。「家族とは」、「家族の結びつきとは」、イヌはそういった大きな問題を考えさせてくれるものと言えるかもしれません。

祭礼・祈祷などの案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話しくください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉
電話

○三―三九一八―七九三〇
携帯

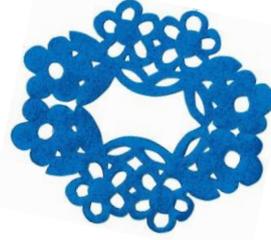
○八〇―一九八七―八七二六
eメール

daikokujinja@gmail.com



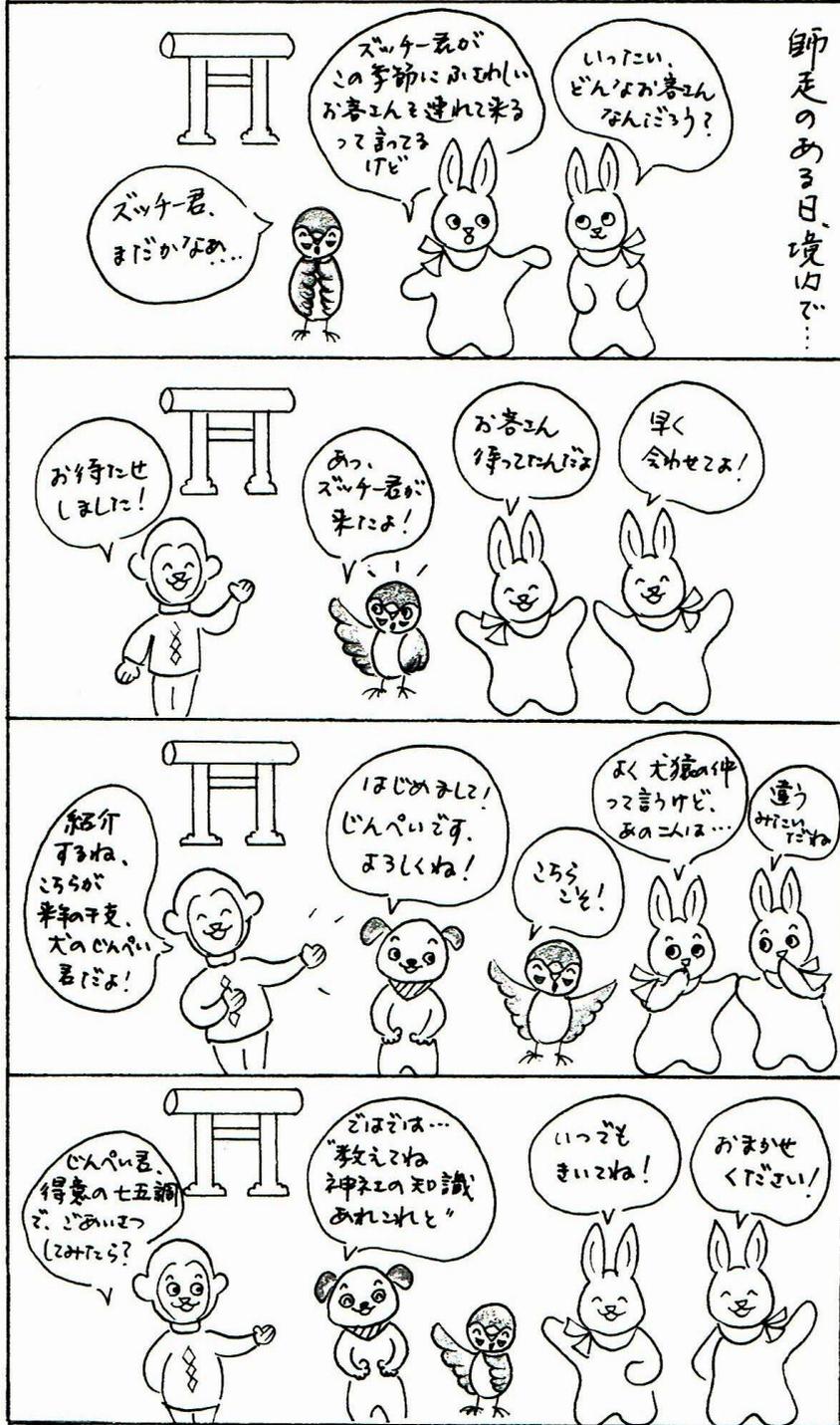
(連載まんが)

大吉うさぎ ～師走のお客さん～ くま こまち 作



○次回甲子祭
平成三十年二月一日(木) 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで



次号発行予定

「だいいこく通信第三十二号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、平成三十年二月一日の甲子祭に発行予定です。

「だいいこく通信」第三十二号 平成二十九年十二月三日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>

